

平成16年9月30日 発行

IUHW

vol. **57**
September
2004

The gazette of International University of Health and Welfare

発行：学校法人国際医療福祉大学
編集：広報委員会 ☎0287-24-3000
ホームページアドレス：http://www.iuhw.ac.jp



News ● 2005年4月

薬学部を開設予定、 武道館（10周年記念事業） （名称募集中！）を新設。

特集

学生たちが体験した、 海外保健福祉事情／ 海外研修・活動報告

—ベトナム・中国・アメリカ・オーストラリア

◆「人」第6回

「社会福祉と寄付の文化」

医療福祉学部長・医療福祉学科長・教授
鈴木五郎

◆新連載エッセイ「映画の心と眼」第1回

「現代人にとって祈りとは」

客員教授 諏訪 淳

●医療制度改革の最先端に身をおき、 病院の変革を担える人材育成を目指す

医療経営管理学科教授 高橋 泰

Topics

笹沼澄子教授最終講義—言語コミュニケーション障害の臨床と理論—／「言語聴覚学科卒業研修会」で、伊藤元信前学科長が講演／国際医療福祉大学クリニック言語聴覚センターでミニセミナーを開催／恒例の語学教育センター主催 English Eveningsに88名が参加／献血運動の推進に貢献と、坂口厚生労働大臣からボランティア「レッド・ホッポ」に感謝状が贈られる／平成16年度第1回「大学院全体会議」開催／平成16年度「学内研究費研究発表会」が開催される／言語聴覚学科同窓会“おおるり会”主催「第6回 卒業研修会」が開催／「第8回日本看護管理学会年次大会」が、中西睦子看護学科長を大会長に開催

告知板

「看護学科公開学習会」のお知らせ／
「OB・OGセミナー&座談会」開催のお知らせ



薬学部棟（平成17年2月完成予定）

新設する薬学部においては、これまでの薬学教育のあり方を見直し、充実したカリキュラム編成の下で、教育と実習の密接な連携を行い、医療福祉分野での科学技術の高度化や専門化に対応できる、質的・技術的に高いレベルを持った薬剤師の教育をめざしてまいります。

国際医療福祉大学は 国際性豊かな 新時代の薬剤師の 養成をめざして 平成17年4月、 栃木県大田原市の キャンパス内に 薬学部を開設予定です。

科学技術の高度化や専門化に対応できる、質的・技術的に高いレベルを持った薬剤師の教育をめざして

国際医療福祉大学学長 谷 修一



本学は、二学部八学科を擁する医療と福祉の総合大学として、全学科を同一のキャンパスに配置し、病気や障害を持つ人も健康な人も、お互いを認めあう、共に生きる社会」の実現を、建学以来の教育理念に掲げています。二十一世紀の健康、医療、福祉を担うことができ、広い視野を持つ人材を育成することこそ本学の夢であり目標です。

時代が求める、新しいタイプの薬剤師の育成をめざします。

国際性豊かな薬剤師

- ・患者の心の痛みがわかる薬剤師
- ・コミュニケーション力の豊かな薬剤師
- ・国際的視野を持った薬剤師

医療人としての薬剤師

- ・患者本位の医療に貢献する薬剤師
- ・チーム医療の一環として医師、コメディカルスタッフ等と連携できる薬剤師
- ・調剤薬局の経営を担う薬剤師

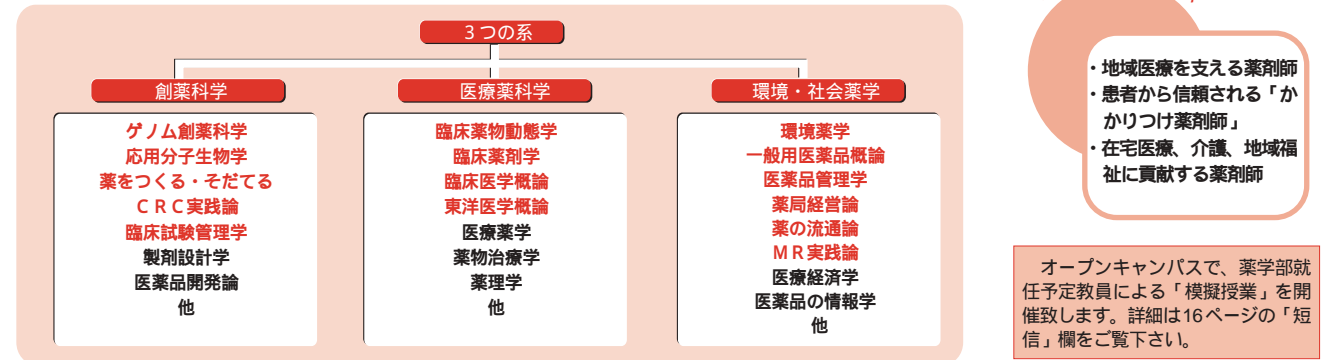
21世紀の創薬への貢献

- ・バイオテクノロジーを基盤とした新規医薬品の創製に貢献できる人材の育成
- ・臨床試験コーディネーターの養成
- ・専門性豊かな医薬情報担当者（MR）の養成

高度医療への貢献

- ・高度な薬の知識、調剤・製剤技術を有する薬剤師
- ・高度な医薬品情報を活用し、医療の安全に貢献できる薬剤師

従来にはなかった多くの新設科目(青字)を予定しています。



学生たちが体験した
ベトナム・中国・アメリカ・オーストラリア
海外保健福祉事情／海外研修・活動報告

参加者一覧

ベトナム	NS2年	年
芦川美穂	NS2年	年
野口都子	NS2年	年
高瀬寛子	NS3年	年
池千紘	NS3年	年
古村結子	PT2年	年
藤山裕晃	ST3年	年
志賀温子	ST3年	年
田中未来子	ST3年	*
中村江里	ST3年	*
大野智也	HS2年	年
櫻村 歩	HS3年	*
山口優子	PT2年	年
引率教員：富沢比呂之		
(放射線・情報科学科講師)		
中国	NS3年	年
山田美保	OT2年	年
平田藍子	OT2年	年
古舘亜矢子	OT2年	年
松田由紀子	OT2年	年
三浦亜希	OT3年	年
野村美生	ST3年	年
赤坂理恵子	ST3年	年
妹尾貴三子	ST3年	年
矢野良子	ST3年	年
引率教員：浅香 勉		
(医療福祉学科講師)		
アメリカ	NS2年	年
氏家暁子	NS2年	年
興出知子	NS2年	年
小峯なつみ	NS2年	年
中山朋美	NS2年	年
西村友恵	NS2年	年
野堀祥子	NS2年	年
松沢朋美	NS2年	年
河上佳子	NS4年	年
早野真理	NS4年	年
深澤茉莉子	PT2年	年
引率教員：金 升子		
(看護学科助教授)		
オーストラリア	NS2年	年
伊藤 潤	NS2年	年
田中優美	NS2年	年
早川小百合	NS2年	年
渡辺真理	NS4年	年
安原聡美	NS4年	年
近藤見義也	PT2年	年
宮島達也	PT2年	年
服部律子	OT2年	年
河原加奈	ST3年	年
水上 優	ST3年	年
渡邊千紘	ST3年	年
平野絵美	ST3年	年
小山由香	ORT3年	年
菅野未紀	ORT3年	年
神藤謙吾	ORT3年	年
引率教員：三柴恵美子		
(視機能療法学科講師)		

* 本欄寄稿者



中国：天安門前広場にて

研修活動は八年前のベトナムでの活動から始まり、二〇〇〇年から単位認定科目「海外保健福祉事情」となり、研修国も四カ国となった。昨年はSARSの影響で派遣が三カ国となったが、本年は四カ国へ、二四年・六学科から四七名の学生を送ることができた。

国により活動内容は異なるが、主にベトナムではチヨウライ病院でのボランティア、中国ではリハビリテーション研究センターの助けにより学科別研修、アメリカでは医療・保険制度の講義と医療施設の見学とボランティア、オーストラリアでは一週間のホームステイを含み、英語の学習、福祉制度・高齢者ケアの講義と医療施設の見学などである。

現地の方々との交流、コミュニケーションの難しさと重要性、文化の違い、歴史の重み等々、若者が実際に感じたことを今後の勉強に生かして、さらに飛躍してほしい。

なお、風花祭企画「国際DAY」(十月

十七日前)に、研修・活動報告を行う(6ページにプログラム掲載)

(国際交流委員会・語学教育センター 田中美子)

ベトナム研修に参加して

研修は見るものすべてが貴重なもので、日本とは違った医療現場を体験することができた。研修先のチヨウライ病院は日本との交友病院ということもあり、日本語を話せるスタッフが多いことに驚いた。そしてベトナムの人々は好奇心旺盛で、私たちの感じたことを聞きたがっていた。病院のスタッフは人柄がよく、いつも笑顔で対応してくれ、「何がやりたい?」と私たちの意見も聞き入れてくれた。今回私たちはPTチーム、小児脳神経外科病棟、ICUの三つの病棟を実習させて頂き、どの病棟においても大変貴重な体験をさせて頂いた。また、実際に患者さん

と接することで、表情や身振りによるコミュニケーションの大切さを痛感した。この二週間で得たものを今後の勉強に役立てていきたい。今後私たちが専門職として働けるようになったとき、再びベトナムを訪れたいと思う。

(医療福祉学科三年 櫻村 歩、言語聴覚学科三年 中村江里)

ベトナム研修を終えて

ベトナム戦争後約三十年が過ぎて、ドイモイ政策のもとベトナムはまさに発展途上にあり、ホーチミン市はその中心的商業都市として無数のオートバイの、一見無秩序に見える混雑とクラクションやエンジンの喧騒に包まれていた。

学生たちは、病院の脳神経外科病棟、脳神経外科ICU、リハビリテーションルームにおける研修、およびモデルタにある地方病院と市内中心部にある小児リハビリテーションセンターの見学を通して、ベトナムの医療システムやその



ベトナム：チヨウライ病院前。アオザイを着て

現状をわずかながらも理解できたであろう。また、辞書を片手に身振り手振りやスタッフや患者さんとその家族と交流したことや、通りの両側に立ち並ぶ小さい商店や食堂を垣間見たことで、ベトナムの人々の日常生活や価値観をも学ぶことができたであろう。研修期間中に経験したすべてのことが今後の彼らにとって大きな財産となることは間違いない。日常業務が忙しい中、本研修のためにご尽力くださった病院スタッフの方々に心から感謝する。

(引率教員：放射線・情報科学科講師 富沢比呂之)

中国研修を終えて

中国の首都、北京で私たち九人の研修が始まった。研修の特徴は中国リハビリテーション技術の最先端である中国リハビリテーション研究センターで、実習を行うことだ。実習で私たちは、NS・OT・STそれぞれの専門分野の現場を実際に見学し、さまざまな臨床を体験することができた。この貴重な経験は将来専門職に就く私たちに、必ず役立つものだと思信した。

また週末には、中国四千年の歴史に触れた。私たちが訪れた万里の長城は、ピラミッド、エッフェル塔と並ぶ、宇宙から見える世界で三つだけの建造物である。観光地までの道のりでは、日常の風景を垣間見ることができた。食事も中華三昧で、至福の時を過ごすことができた。

このような素晴らしい体験ができたのは、一重に受け入れてくださった中国側の大勢のスタッフの皆様のおかげである。大感謝です! (本当にありがとうございました。そして十人全員の無事の帰国に干杯!) (乾杯)

(作業療法学科二年 三浦亜希)

二〇〇四年度海外研修(中国・北京)報告 第六回を迎えた中国リハビリテーション研究センターにおける本研修は、他の海外研修同様にすべての日程・研修内容を無事かつ成功裏に終了しました。ここに報告と共に関係の皆様へ改めて感謝申

中国

本研修グループの構成はNS一名、OT五名、ST三名の計九名でしたが、センター内研修および視察研修等を通じ、学科を越えたそのチームワークの良さを強く感じました。このことが臨床面で疑問解決や、体調を崩した際の助け合いを生み出し、充実した研修を支えましました。

また臨床実習の過程から生まれる友好関係は、両国の文化や言葉の違いを越えて、コ・メディカル職の専門性の大切さと市民生活に果たす役割を学ぶことに役立ちました。最後に研修中のJICAによる派遣で滞在しておられた藤沢、菅原両先生からの資料提供とアドバイスを、心より感謝致します。

(引率教員：医療福祉学科講師 浅香 勉)

アメリカ研修に参加して

患者さんとのかわわりを第一にする看護の在り方にとっても共感し、実際にアメリカの医療現場に触れてみたいと思い、今回の研修に参加した。アメリカの医療制度についての授業や、病院、施設訪問等を通して学んだことはたくさんあった。その中でも印象深いのは、アメリカではそれぞれのコミュニケーションで住民たちの自己責任や自立意識が強く、自分たちの地域社会を良くしていくため病院に寄付したり、ボランティアとしてマンパワーを提供することを惜しまないことであった。医療従事者だけではなく、一人ひとりが

医療に対して積極的に貢献している点が素晴らしいと思った。患者さんの立場に立ち、同じ目線で物を見ることにより、自然に自分には何ができるかが理解できると思う。

今回のアメリカ研修を通して学んだことは、これから理学療法士として臨床の場に立つ上で、貴重な財産になることと思つた。

(理学療法学科二年 深澤茉莉子)

USA海外研修報告

シンガポール空港の優雅な女性乗務員に機内に導かれてUSAの海外研修は開始された。米国に到着後は、テロの問題で入国審査が厳しく、平和な日本との差を感じた。空港に待機していた車で、まず着いたのはサンタモニカの海岸である。裸足で砂浜を歩き、皆時差ほけはない元気な様子で安心した。宿泊モーテルの環境は研修教室に徒歩で移動可能である点



アメリカ：ナーシングホームにて

で良かった。研修先の施設や病院はいずれも受入れは良い。日系施設での浴衣着用の歌のボランティアは好評だった。時々研修後に運転手の方に市場や海岸の方を迂回してもらった。何年か後に学生が美社会に出て人生の辛さを感じたときに、皆で見た海岸の美景と共に、ご両親や大学の配慮で豊かな時間と経験ができたことを思い出し、頑張る気持ちになってくれたら引率した甲斐がある。学生と共に大学の関係者、学生のご両親にもこの研修が有意義で無事に終了できたことを感謝と共に報告する。

(引率教員・看護学科助教 金子 升子)

空と海と共に…… オーストラリア

素晴らしい青空と美しい海に魅せられたオーストラリアでの海外研修。私たちオーストラリア班員において最も貴重な経験となったものは、何と云ってもホームステイである。コミュニケーションを取るために嫌でも英語を話さなければならぬという生活環境は、私たち十五人の英会話のスキルを確実にアップさせた。また、それは日々の生活においても同様であったことは言うまでもない。各家庭でのハウスルールや食事、休日の過ごし方などの違いはあったものの、一週間という短い期間

の中で十五人全員が最高の思い出を作った。病院や施設の見学では看護学科が中心となり、日本と比較しながら医療を学んだ。天候にも恵まれた二週間の旅でかけがえない思い出と自信を手に入れた十五人。私たちは確かに成長し、何より素敵で充実した時間を過ごしたことは間違いない。

(視機能療法学科三年 神藤謙吾)

二〇〇四年度海外研修
オーストラリア研修参加者十五名。ホームステイ、英語の授業、そしてオーストラリアの福祉事情のレクチャーの聴講、ホスピス・老人介護施設などの見学とG・C・I・T (Gold Coast Institute TAKE)側の度重なる予定変更があった



オーストラリア：Care Flight 見学

Date: June 6/19 言語コミュニケーション障害の臨床と理論 笹沼澄子教授最終講義

六月十九日(土)、笹沼澄子教授の最終講義がF101教室において行われた。当日は在校生だけでなく卒業生も多数駆けつけ、笹沼先生の講義を皆真剣な眼差しで熱心に聴いていた。

講義は「概観」「コミュニケーション障害を「みる」ということから」「読むことに関する障害である「失読」について症状やその発生機序仮説」これまでの研究のReviewなどが具体的に示され、学生にとって、大変理解しやすいものであった。最後に笹沼先生より熱いメッセージを頂き、学生は皆、言語聴覚士になることへの意識



最終講義を行う笹沼澄子教授

がさらに高まったようだ。

講義後はカフェテリアに会場を移し、懇親会が行われた。懇親会では常に大勢の学生が笹沼先生を囲み学術的なお話のほか、さまざまな話題に花を咲かせていた。学生たちにとっては、笹沼先生とゆつくりとお話をしたり、記念写真を撮ったりと、楽しい時を過ごすことができたとともに、良い刺激を受けたようだ。

笹沼先生に師事した学生は、今後ますます全国で活躍することだろう。

(言語聴覚学科助手 伊藤智彰)

Date: June 6/20 言語聴覚学科卒業研修会 伊藤元信前学科長が講演

今年度の言語聴覚学科卒業研修会では、「摂食・嚥下リハビリテーションにおける言語聴覚士の役割 何をすべきか、何ができるか」という演題で、伊藤元信前学科長(現常務理事)にご講演いただいた。

十数年前までは、摂食・嚥下に困難を来す方々に対して専門的な立場から言語聴覚士がかかわることはほとんどなかった。ところが摂食・嚥下障害はコミュニケーション障害(言語障害や発声発話障害)を併発することも多いためか、今や言語聴覚士の臨床業務として定着している。一方で摂食・嚥下は肺炎や窒息などの生命にかかわるリスクを伴ったために敬遠されがちであることも事実であるが、本学科の卒業生たちは意欲的に取り組み伊藤先生の講演も食い入るようにして聴

ものの、盛りだくさんの内容を無事こなす、有意義な研修を受けることができたことと信ずる。特にデビー先生の講義は分かりやすい内容で、オーストラリアの福祉システムの実態と日本のそれとを比較する上で、大変役に立ったのではないかとと思う。今回特別「Vision Center」の見学をすることができたが、学生の期待が大きかったGold Coast Hospitalの見学ができなかったのは、とても残念だった。

(引率教員・視機能療法学科講師 三柴恵美子)

お知らせ

平成十六年度大学祭(風花等)にて開催
「国際DAY」プログラム(予定)

日時：平成十六年十月十七日(日)

午前九時三十分～十二時四十五分

場所：E101教室

進行：小野田公・理学療法学科二年

／青年海外協力隊OB隊員

開会挨拶

国際医療福祉大学・国際交流委員会委員長 田中美子

・九時三十分～三十五分(五分)

【第一部】

国際医療福祉大学学生の海外研修・ボランティア活動報告

一ベトナム・中国・アメリカ・オーストラリアでの海外研修・ボランティア活動報告

二国際保健協力海外研修報告(フィリピン)

および学生団体OPSTの活動報告・遠藤雅幸(Overseas Primary Health Care Study Team)

・九時三十五分～十時五十五分(八十分)

【第二部】

国際協力機構(JICA)の事業の解説および

宿泊したホテルは、延々と続く美しいゴールドコーストの海岸がすぐ近くにあり、朝夕の散歩を堪能することができた。気候の違いから風邪を引いた学生もいたが、大きなトラブルもなく無事終了したことに、お世話になった関係者の方々に深く感謝申し上げる。

(引率教員・視機能療法学科講師 三柴恵美子)

び青年海外協力隊OB OG隊員の活動報告
一国際協力機構(JICA)の事業の解説(仮題)
二青年海外協力隊OB OG隊員の活動報告
・十時五十五分～十一時五十五分(六十分)含、質疑応答)

【第三部】
特別講演

「日本とオランダの科学技術交流」江戸時代/長崎・出島から二十一世紀まで(仮題)

在日オランダ大使館・科学技術参事官 フィリップ ウエイヤス

・十一時五十五分～十二時三十五分(四十分)含、質疑応答)

来賓挨拶(予定)

財団法人 栃木県国際交流協会

閉会挨拶

国際医療福祉大学学長 谷 修一

・十二時三十五分～十二時四十五分(十分)

主催：国際医療福祉大学 栃木県青年海外協力隊OB会

共催：独立行政法人 国際協力機構・東京国際センター

後援：大田原市 財団法人 栃木県国際交流協会 大田原国際交流会

いていた。

先生は摂食障害と嚥下障害の違い、そして嚥下機能に関する評価・診断方法およびさまざまな訓練アプローチについて映像を供覧しながら丁寧かつ歯切れよく講演してくださいました。映像の中では米国のSpeech-Language Pathologist(日本の言わば言語聴覚士)が自らX線透視装置やビデオ内視鏡で嚥下運動を観察し、嚥下の病態や誤嚥の程度を評価している場面があった。日本においては言語聴覚士がこれらの機器を扱つことは法的に認められていない。伊藤先生は、「最新の機器を用いて評価・診断することも必要だが、言語聴覚士の視点で患者の状態をよく観察することこそが評価・診断の基礎であり、丁寧にその観察記録を残しながら訓練することも立派なEvidence Based Medicineである。そのためには、やはり専門的知識と技術のたゆまぬ研鑽が必要である」という内容で講演を終わられた。

摂食・嚥下リハビリテーションに関する知識が得られただけでなく、言語聴覚士としての原点に立ち返ったような爽やかな気分になる講演であった。

(言語聴覚学科教授 城間将江)

【問合せ先】

国際医療福祉大学クリニック・言語聴覚センター(本郷・内海・落合)

電話：〇二八七 二四 一三三三

FAX：〇二八七 二四 一〇〇三

Date: July 7/6 国際医療福祉大学クリニック言語聴覚センターでミニセミナーを開催

国際医療福祉大学クリニック言語聴覚センターでは、県北を中心とした関連機関(病院・福祉施設・学校・幼稚園・保

育園など)に勤務するさまざまな職種の方々とともに、学び交流する場として、今年度もミニセミナーを開催している。

第二回ミニセミナーは七月六日(火)に日本医科大学附属病院耳鼻咽喉科頭頸部講師、三枝英人先生より、「頭頸部腫瘍手術後の嚥下障害とそのリハビリテーション」と題してご講演いただいた。介護職員、福祉職員、医師、学生など二十八名の参加があり、三枝先生からは症例の紹介を交え、分かりやすくお話いただき、専門的な内容に参加者が熱心に聞き入った。講演後には、手術やより詳しいリハビリテーションの手法から、実際の嚥下障害患者に対する接し方・日常生活での対応の仕方に至るまで幅広い質問が多数飛び交い、講演は大変好評であった。

今後も第一火曜日を中心としてミニセミナーを開催する予定だが、第三回の講演は九月七日に「きこえとことばの教室の指導と役割」と題してさいたま市立高砂小学校ことばの教室教諭、高橋明子先生をお招きしてご講演いただく予定である。本学職員、学生の参加も可能。

【問合せ先】

国際医療福祉大学クリニック・言語聴覚センター(本郷・内海・落合)

電話：〇二八七 二四 一三三三

FAX：〇二八七 二四 一〇〇三

(言語聴覚センター言語聴覚士 内海景子)

恒例の、語学教育センター主催 English Evenings に八八名が参加

恒例の英語夏季公開講座が、七月二十日(火)から二十三日(金)までの四日間...

顔なじみのメンバーとは、お互い変わりなく元気であることを喜び合い、以前は小学生だった坊やが背丈も伸びて立派な中学生になって参加してくれたのを嬉しく迎え、初日はhomecomingさながらの雰囲気になった。

平成十六年度、学内研究費研究発表会が開催される

七月二十九日(木)、平成十六年度学内研究費研究発表会が開催された。この発表会は、毎年、年一回、昨年度一年間の研究成果を口頭またはパネルセッション方式で発表するものである。

当日は、午前九時に中西睦子FD委員会委員長の挨拶により開会し、お昼休み一時間を挟んで、十四時三十分まで、二会場に分かれて、十一名の口頭発表、四名のパネルセッション(うち二名は研究発表概要による報告)による発表が行われ、谷学長をはじめ、多数の教員の皆様にご参加いただき、活発な質疑応答が展開された。

医療系、医療技術系、理工系、文科系の教員が協同して講義を行っているのは、コメディカルの総合大学である本学の特色の一つであるが、それらの教員が一同に会する本発表会は、学内における教員相互間の専門分野の認識または共通する研究テーマの発見等の場として、貴重な機会となっていると言えよう。

(医療経営管理学科助教授 大隈暁子)

献血運動の推進に貢献、坂口厚生労働大臣から、ボランティア「レッドポツポ」に感謝状が贈られる

このほど、国際医療福祉大学に、献血運動の推進に多大なる貢献があったとして、坂口厚生労働大臣から感謝状が贈られた。

感謝状の贈呈伝達式は、去る七月二十二日(木)宇都宮市の「とちぎ福祉プラザ」において行われ、本学からは谷学長、中嶋事務部長が出席、福田昭夫栃木県知事より感謝状と記念品が贈呈された。

これは、第四十回献血運動推進全国大会開催に伴い、献血運動の推進に多大な貢献があった県内の七団体に贈られたもので、本学は公認部活動である、赤十字ボランティア「レッド・ポツポ」の長年にわたる献血ボランティア活動の実績が高く評価されたものである。



パネルセッション会場にて

言語聴覚学科同窓会 おおるり会主催 「第六回 卒業後研修会」が開催

八月一日(日)本学F101教室において、言語聴覚学科同窓会、おおるり会主催の「第六回卒業後研修会」が開催された。今回は埼玉県立小児医療センター耳鼻咽喉科科長である坂田英明先生に新生児聴覚スクリーニングに関して講演いただき、その後卒業生三名による症例および活動報告が行われた。

坂田英明先生の講演は卒業生にとってはおもろいこと、出席していた在学生にとつて言語聴覚士という専門職に就く者が現場で求められているもの、なすべきことを指導いただけたのではないかと思う。また、特に四年生にとつては言語聴覚士国家試験や就職が一層現実味を帯びて感じられたのではないだろうか。

入所施設利用者への入所に至る背景について



谷学長から感謝状を受ける「レッドポツポ」の佐藤部長と堀内・横田両副部長

三名に対し、感謝状と記念品贈呈の伝達があった。現在部員は、男女計四五名が在籍し、定期的に行われる学内での献血や、街頭で行われる献血運動にボランティアとして参加している。また、県内の献血ボランティアサークルで組織する栃木県献血推進連盟「かけはし」にも参加し、他大との交流も盛んで、交流会の開催や献血運動への共同参加など幅広い活動を行っている。栃木県の献血運動発展に大きく貢献している。

平成十六年度 第一回 大学院全体会議「開催

七月二十七日(火)、平成十六年度第一回大学院研究科会議が開催された。この会議は、大学院教育にかかわる先生方が



教員懇親会での水巻中正先生と佐藤貴一郎先生

日ごろ感じている問題点等について意見交換をする場である。当日は、東京サテライトキャンパスを主会場として、大田原本校、福岡、柳川、熱海の各サテライト教室を遠隔会議方式で結んで行われた。全会場で五五名の先生方が出席され、開原成允大学院長の議事進行で、まず各サテライトおよび各分野の現状と問題点の報告、本年四月に初めて開講した公開講座の「乃木坂スクール」について、前期総括と後期の計画について発表があった。

「第八回日本看護管理学会年次大会」が中西睦子看護学科長を大会長に開催

八月二十日(金)・二十一日(土)の二日間、栃木県総合文化センター(宇都宮市)において第八回日本看護管理学会年次大会が開催された。

日本看護管理学会は看護管理に関する学術の交流、医療経営・管理における最新情報の提供ならびに参加者相互の情報交換を行うことにより、日本における看護管理の発展とそれによる医療の質向上に貢献する目的で設立された学術団体である。会員数は現在一三〇〇人あまりで、構成メンバーは看護管理者を含む看護実践者、看護教育者、看護研究者、看護行政担当者等と幅広く、改革期にある日本の医療および看護の実情を反映してか会



大会長講演「組織を支え、組織を変える“副”の立場の働き」を講演中の中西睦子看護学科長

員数は年々増加している。このたびの年次大会は昨年度の看護管理学会総会で本学看護学科長中西睦子教授が大会長の指名を受け、看護学科教員が総力を挙げて企画・プログラム作成・大会運営に取り組んだ意義深い学術集会である。大会のメインテーマは、「しくみを変える知識を築く、副というポストの働きに焦点を置いて」とし、これまで注目されることがなかった副のポストに視点をおいた大会長講演、シンポジウム、ディベートなどのプログラムが組まれ、一〇〇題を超える一般演題の発表があった。

(看護学科教授 渡辺孝子)

TOPICS
医療制度改革の最先端に身を置き、病院の変革を担える人材育成を目指す
DPCに対応した人材を育成するための試み

医療経営管理学科教授 高橋 泰
「DPCによる包括支払い」が平成十八年春に本格稼働する。新しい制度へ移行しないと急性期医療を行うことが難しくなり、急性期医療を行っている病院の多くは、DPC体制に移行するか、しないかという病院の存亡にかかわる決断を迫られている。

こうした中、医療経営管理学科では、DPCに対応した人材を育成するために二つの試みを開始した。第一は、DPCの試行を行っている日本の先進病院と医療経営管理学科が協力して卒業特別研修を開始することである。選抜試験に合格した当学科の四年生が、研修病院で、卒業幹部候補生として一年間の有給研修を受ける。当学科の國分厚志君、宮澤真奈美さんが日鋼記念病院（北海道）、鈴木寿和君、橋本昌仁君が河北総合病院（東京）、木下洋一郎君が赤穂中央病院（兵庫）で来春より研修を始める予定である。

DPCに対応した第二の試みは、「DPC試行病院連絡協議会」の設立である。この協議会は、医療経営管理学科の高橋、外山、山田が呼び掛けを行い、DPC試行や回りのデータ提供に参加する民間の先進病院の半数以上が集まり今年の五月に結成された協議会参加病院（七月三十日現在三二病院）は、国へ提出する患者情報と支払いデータと同様の膨大なデータを国際医療福祉大学に提出する。これらのデータを事務局である医療経営管理学科が解析し、各病院へフィードバックを行う。また協議会は、必要

に応じて国に対してDPCに関する種々の提言や、協議会参加病院やこれからDPCに参入を予定している病院に種々の情報を提供する予定である。

医療経営管理学科は、卒業特別研修とDPC連絡協議会を通して、変革の時代に対応できる人材を養成するためのノウハウを蓄え、今後、卒業生が医療機関で指導的役割を担える人材として活躍できるように、教育内容の充実を目指している。

DPC三講座

病名や提供された診療内容をもとに患者を区分するケースミックス区分法を「診断群分類」という。日本では二〇〇三年度より特定機能病院において、DPC（Diagnosis Procedure Combination）という診断群分類をもとにした患者情報や診療情報の収集が始まった。また、同時に、医療費のかなりの部分を患者がどのDPCに属するかにより支払額が決める新しい診療報酬の支払いが開始され、今後急性期医療を行う病院に対して、この支払い方式が急速に拡大されていく可能性が高い。DPCを用いた新しい診療報酬体系の特徴は、判定されたDPCにより、一日当たりの包括払いの額が決定される。

入院期間により支払額が変動し、入院がある期間を超えると支払額が減少する。同一のDPCに分類された場合でも、一日当たりの医療費は病院により異なるという二点にまとめられる。
『医療・福祉経営管理入門（四訂版）（国際医療福祉大学出版会刊）第一部第八章「診断群分類（DPCとDPS）」（高橋泰著）より』

告知板

「看護学科公開学習会」のお知らせ

地域住民や県内の看護実習施設の方々とともに学び、交流を深めることを目的として、今年度も看護学科では公開学習会を次のとおり開催します。

今年は「子育てと危機 子どもとどう向き合つか」と題して、シンポジウムを行う予定です。親・養護教諭・保健師・精神科医の四名のシンポジストを迎え、家族関係が希薄になってきている状況の中で、どのように大人が子どもと向き合っている関係性をつくっていくべきなのか、不安や戸惑いの現状を理解し、その解決に向けた手がかりを参加者の皆さんと一緒に考えてみませんか？
多くの方々の参加を心よりお待ちしております。

- 【開催日時】十一月二十日（土） 十二時五十分～十五時三十分
- 【場所】国際医療福祉大学 E101教室
- 【定員】一五〇名
- 【問合せ先】国際医療福祉大学保健学部看護学科 公開学習会担当：刈生田・平山・押尾
電話：〇二八七 二四 三〇二六
FAX：〇二八七 一四 三〇七二
（看護学科助教 郷間悦子）

「OB・OGセミナー&座談会」開催のお知らせ

昨年も開催致しました「OB・OGセミナー&座談会」を、今年度は風化祭の期間中に合わせ左記のように開催する予定です。この「OB・OGセミナー&座談会」は、実際に医療・福祉の現場で活躍している卒業生を招き、業界の現状や実際の仕事ぶり、自分の就職活動などについて語ってもらおうプログラムです。かつて自分たちと同じように大学で夢に向かって努力を重ねてきた先輩の言葉は、学生たちにとって何ものにも代えがたい説得力があるものと思います。

昨年は三十名近くの卒業生を招き開催されましたが、学部生の参加があまり思わしいものではありませんでした。決して堅苦しい会ではありませんので、ちょっと先輩方の話を聞いてみよう、くらいの気持ちで、御気軽に参加下さい。

- 【日時】十月十七日（日）正午より
- 【場所】L棟五階 多目的ホール
- 【参加費】無料（昼食、ソフトドリンク付）
（同窓会理事 鈴木康文・PT一期生）



昨年の「OB・OGセミナー&座談会」

映画の心と眼
客員教授 諏訪 淳（すわ あつし）

第1回

現代人にとって祈りとは

この時「現代人にとって祈りとは何か」と自身に問い詰めた衝動にかられた。一九八三年にドキュメンタリー映画作品『薩摩盲僧琵琶』を製作した時、『地神』などを守護神とする目の見えない坊さん、つまり盲僧・福貴島順海師と初めて出会ったその感慨である。そもそも薩摩盲僧は、鎌倉時代に島津藩の祈禱僧として下向し、現在の鹿児島県吹上町の地に本寺・常楽院を建立したことに始まった。

盲僧の生き方と琵琶の尊さを通じての『生と死』。このテーマでの映画製作の最中、私には忘れられない出来事が起こった。当時十六歳であった息子の行状を盲僧に打ち明けた。『朝になると腹や頭が痛い熱がある』と云って登校拒否が続く。その内に暴走族の仲間にも入っていった……。

祭壇の前でこの悩みごとについて祈り続けてくれた盲僧の姿は、初めて出会った時の強烈な印象そのものであった。盲僧は語り始めた「息子さんは、これから五カ月おそろく九カ月には必ず立ち直りますから……」。いぶかしげに聞いていた私を察知し、「その立ち直る証拠として、息子さんの左肩の所に赤いアザのようなものが現れているはずだ」。後日、息子の左肩に「センチほどの赤い斑点」があることを私は知った。そして六カ月目頃から息子は確実に立ち直った。



著者近影

白い杖をつき、檀家廻りをする盲僧
（映画『薩摩盲僧琵琶』より）

キリトリ線

多目的施設名称応募用紙

（一般・学生・教職員）

施設の名称	
その名称を選んだ理由	
応募者	氏名 _____ 住所 _____ 電話（連絡先） _____ 《国際医療福祉大学学生 _____ 学科 _____ 年》

- 応募方法：この用紙をコピーするかまたは切り取って、大学学生課宛ご郵送ください（学生の方は、学生課窓口「応募箱」へ）。
FAX での応募も受け付けております。
（なお、応募用紙は大学ホームページからもダウンロードできます。http://www.iuhw.ac.jp/topics/budoukankoubo.html）
- 応募資格：一般・学生・教職員、どなたでも応募できます。
- 応募・問い合わせ先：〒324-8501 栃木県大田原市北金丸2,600-1 国際医療福祉大学 学生課
TEL：0287(24)3003 FAX：0287(24)3140
- 締切り：平成16年10月31日
- 賞品：図書カード（5万円分）

社会福祉と寄付の文化



わが国の社会福祉は、二十二年くらいの間を掛けて基礎構造改革が進められてきた。すなわち、戦後の福祉国家論を背景とする国家責任による福祉、措置制度、施設整備費の補助金、税の免除など、大きい政府による手厚い事業者保護の福祉から、市町村主体の福祉事業、介護保険、在宅福祉領域の民間事業者の多様化、競争原理の導入、支費制度、利用・契約による福祉へと、小さな政府の方向へ一八〇度の転換が図られてきたのである。



「寄付の文化をどう創造できるのか」ということである。アメリカでは、NPOで雇用されて働く人が一〇〇万人を超えるといわれ、それを支える巨大な寄付の文化が存在する。ところが、わが国には地域福祉、ボランティア活動、先駆的な民間事業を支える民間財源が存在しない。研究や設備、物件費、行事

の助成はあるが、事業の中核をなす人件費を継続的に助成する仕組みはどこにも存在しない。すべては税金か社会保険財源頼みという構造では、きめ細かで生き生きとした民間の福祉事業や活動は育たない。この財源構造をなんとか改革することが残された課題である。

プロフィール
日本社会事業学校研究科修士。全国社会福祉協議会に勤務。福祉施設や社会福祉協議会について全国組織の指導にあたり、平成二年より理事・事務局長。平成五年から全国老人クラブ連合会の常任理事・事務局長。地域福祉・コミュニティワークを専門とする。日本ソーシャルワーカー協会副会長。

国際医療福祉大学附属熱海病院

NEWS

八月四日

第一回 附属熱海病院BLS講習会を開催

八月四日、第一回「附属熱海病院BLS講習会」が院内で開催された。

このBLS講習会は、アメリカ心臓協会が開発した救急救命処置を医療従事者に教育する手法として知られるACLSコースにのったプログラムで行われた。

BLSは、Basic Life Supportの略で「一次救命処置」と訳されるのに対し、ACLSは「Advanced Cardiovascular Life Supportの略で「二次救命処置」と訳されている。

BLSは人工呼吸、心臓マッサージによる心肺蘇生法から始まったが、近年は除細動までもその範囲に入るようになってきた。

ACLSは気管挿管、薬剤投与といった高度な心肺蘇生法を示すが、心停止時のみならず重症不整脈、急性冠症候群、急性虚血性脳卒中の初期治療までを網羅したものと進歩してきている。

今やACLSコースは救急救命処置を意味するのみならず、そのユニークな教育方法までを包括的に意味するものとなってきた。

今回の附属熱海病院BLS講習会においては、講師としてACLSのライセンズをお持ちの熱海病院佐々木龍講師が出席し、熱海市救急隊の八島係長をはじめ

とした隊員の皆様のご協力と、当院の外来看護部の岡田副主任をはじめとした職員のご協力により、大変充実した講習会となった。当院職員の出席者は六十人を数え、普段、救急外来担当でない若手の職員にも、有益な講習会であったと好評であった。

今後とも地域の皆様に信頼される病院となるために、当院では救急救命関係の技術力向上に力を入れて行く所存である。

(附属熱海病院総務課 本山聡洋)



教員紹介

Profile

現在の所属・職位 最終学歴 専門分野 前職 主
要著書・論文 本校における担当科目 今後の研究課題



伊藤 淳 (イトウ・ジュン)

国際医療福祉大学附属熱海病院整形外科助産師 / 1960年2月4日生 / 横浜市立大学医学部卒業、横浜市立大学医学部大学院医学研究科整形外科学専攻(博士)終了 / 整形外科学、リウマチ学 / 非特異性抗炎症薬(NSAIDs) / 整形外科手術 / 整形外科手術と術後管理、高齢者の大腿骨頭骨折の治療と予後、肩関節疾患の手術治療と予後、等に關するもの / 整形外科学、リウマチ学 / 人工関節置換術の手術法と術後の腫脹関節運動域について、関節リウマチの病型と予後、高齢者の大腿骨頭骨折の治療と予後



板倉敬乃 (イタクラ・ユキ)

新生児学、母子保健、感染症 / ヘルパン会大宮中央総合病院小児科医長、埼玉医科大学総合医療センター小児科非常勤医師 / 退院後の養育に問題が生じられる母親との関わりについて(小児保健研究62,496,2003) / 感染防止対策からみた新生児管理(産婦人科治療87,201,2003) / 新生児学、小児科 / 地域周産期医療の向上 / 周産期からの育児支援



江口 純 (エグチ・ジュン)

横浜市立大学大学院医学研究科(博士)修了 / 整形外科 / JA神奈川県厚生連相模原協同病院整形外科 / NF-KB and I-KB overexpression in articular chondrocytes with progression of type II collagen-induced arthritis in DBA/1 mouse knees. Clin Exp Rheumatol 2002; 20: 647-652. / 整形外科 / 炎症性疾患における関節軟骨の役割と再生



岡本隆英 (オカモト・タカヒデ)

化癌 / 栗野赤十字病院 / Inhibition of Peritoneal Metastasis by Interferon-α and Interleukin-2 / 胃癌



川崎徳仁 (カサキ・トクニ)

上尾中央総合病院 / 呼吸器科 / 肺がんの集学的治療



佐々木龍 (ササキ・リュウ)

国際医療福祉大学附属熱海病院内科学部 / 2006年11月27日 / 横浜市立大学医学部卒業 / 心臓内科学 / 呼吸器科 / 佐々木龍 / 三浦浩樹 / 北村

外来診療担当医師一覧表

平成16年8月11日現在

曜日	月	火		水		木		金		土	
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	川口(清)	唐澤(清)	川口(清)	川口(清)	唐澤(清)	藤原(清)	北岡(清)	藤原(清)	川口(清)	北岡(清)	
	野澤(清)		北岡(清)	都島(糖・糖)	野澤(清)	野澤(清)	藤原(清)	藤原(清)	藤原(清)	藤原(清)	
	葉山(糖)	葉山(糖)	葉山(糖)	重政(糖)	葉山(糖)	佐々木(糖)	葉山(糖)	佐々木(糖)	重政(糖)		重政(糖)
	玉城(神内)		都島(糖・糖)	玉城(神内)	北岡(清)		玉城(神内)		玉城(神内)		
	下田(糖)		山田(糖)		下田(糖)	山田(糖)		山田(糖)	下田(糖)		山田(糖)
呼吸器科	中村(呼)	中村(呼)	高藤(呼)	高藤(呼)	田口(呼)	田口(呼)	中村(呼)	川崎(呼)	高藤(呼)	田口(呼)	川崎(呼)
	岡本		岩崎		土田	(第1-3)	岡本		土田		岩崎
外科	福垣	福垣	南	南		福垣	福垣	南	南		福垣
	折居	折居	折居	折居	折居	折居	折居	折居	折居		
整形外科	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤	伊藤
	江口				上杉	上杉		江口	江口	1人(交代)	1人(交代)
泌尿科	露崎	露崎	片岡	片岡	露崎	露崎	露崎	露崎	露崎	露崎	露崎
	陶山	陶山	陶山	陶山	陶山	陶山	陶山	陶山	陶山	陶山	陶山
眼科	中西	中西	中西	中西	中西	中西	中西	中西	中西	中西	中西
	五来	五来	五来	五来	五来	五来	五来	五来	五来	五来	五来
女性科	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中	田中
	北谷		北谷		北谷		北谷		北谷		
皮膚科	花田	花田	佐々木	佐々木	佐々木	花田	花田	佐々木	佐々木	佐々木	1人(交代)
	伊東	伊東	伊東	伊東	花田	伊東	伊東	伊東	伊東	伊東	伊東
小児科	藤澤	藤澤	藤澤	藤澤	藤澤	藤澤	藤澤	藤澤	藤澤	藤澤	藤澤
	板倉	乾	十河	高崎	乾	十河	高崎	板倉	十河	板倉	1人(交代)
耳鼻咽喉科	熊谷御堂	神崎	神崎	神崎	神崎	神崎	神崎	神崎	神崎	神崎	神崎
	東野	東野	東野	東野	東野	東野	東野	東野	東野	東野	東野
放射線科	塩野	塩野	塩野	塩野	塩野	塩野	塩野	塩野	塩野	塩野	塩野
ペインクリニック			岡津					岡津			
リハビリテーション科									木村		
病理	北村	北村	北村	北村	北村	北村	北村	北村	北村	北村	北村

【受診のご案内】
1 第1・3・5金曜日の午前診療致します。
2 皮膚科午後診療は、原則予約制です。
3 乳児健診は金曜日の午後2時～午後3時30分、予防接種は火曜日の午後2時～午後3時30分に行っています。予約制です。
4 耳鼻咽喉科外来の月曜日午後は補聴器外来、木曜日午後はめまい・難聴外来、金曜日午後はめまい外来で予約制です。
急患の場合は随時受付しておりますので、ご相談下さい。

診療日 月曜日 土曜日 たたし日曜日 祝祭日は休診日

受付時間
午前の部 13:08～13:30
午後の部 16:12～16:30
17:00～17:30
17:00～17:30
17:00～17:30

夏祭りを終えて
今年で第五回を迎えた国際医療福祉リハビリテーションセンター夏祭りは、例年になく天候に恵まれ盛大に開催することができました。
入所者は久しぶりに家族と一緒に過ごせるひとときが持て、とても嬉しそうでした。
多くの来賓の方々にもご臨席を賜り、またお祭りにボランティアとしてご協力頂きました皆様のお力添えによって、無事に終了することができましたことを御礼申し上げます。
模擬店は、綿あめや焼きそば、玩具など、盛り沢山の品々が賑わいました。アトラクションでは例年、好評を得ているお囃子やアンサンブル演奏、大学音楽サークルのメンバーによる演奏、スタッフによるダンスショーなどで私たちに感動を与えてくれました。
お祭りを締めくくる花火は夏の夜空を彩り、私たちの心に残る思い出を刻んで幕を閉じました。
終了後、反省会を開いて課題を挙げて来年度の夏祭りに反映できるタイムテーブル等の作成をしています。
来年はより一層、皆様に喜んでもらえる楽しい夏祭りを企画したいと思っております。
(夏祭り実行委員長 瀧田晶子)



本記事中の写真掲載に当たっては、入所者本人および関係者の了解を得ております。

ギリシャ語で腫瘍を意味する'oncos'を語源とする'onco'に、学問を意味する'ologie'を組み合わせた'oncology'(オンコロジー)つまり「腫瘍学」、「腫瘍医学」を実践するのがオンコロジーセンターです。
二〇〇三年九月、私は十六年間勤務した国立がんセンターから国際医療福祉大学グループに移り、関連施設である山王メディカルプラザにオンコロジーセンターを開設しました。それまでに数回、高木理事長とお話をさせていただき、わがグループ内、がん医療の臨床、研究、教育を包括的に進める拠点を作れないか、ということに準備を進めてきました。オンコロジーセンター開設後にまず取り組んだことはチーム医療の構築です。現在、オンコロジーセンターでは、看護師四名、薬剤師二名、医師二名、秘書一名がチームを構成し、医事・会計、事務部門との協調体制を基盤として、外来がん化学療法とセカンドオピニオンの提供



「オンコロジーセンター」のご紹介
オンコロジーセンター長・国際医療福祉大学教授 渡辺 亨

山王メディカルプラザ

を行っています。がん化学療法に閉じ世間目を転じますと、外来通院で十分に安全かつ効率的に実施できるものを、患者を無意味に長期間入院させた状態で行っているのが現状です。外来通院ならば従来通りの毎日の生活や仕事をしながら治療を受けることができます。外来がん化学療法を行うには、副作用の予防と対処に万全を期さなくてはなりません。また、患者さん自身に方法方法を理解してもらう必要がありま。その説明は、医師よりも、むしろ看護師の方が、患者さんの理解度を確認しながら情報提供するのがずっと上手です。セカンドオピニオンも、現在のがん医療で決定的に不足しているため、オンコロジーセンターでは力を入れています。毎日三、四人の患者さんがセカンドオピニオンを求めて来院されますが、一人に三十分、六十分かけて話を聞き、よく説明し、抗がん剤治療の段取りについて十分に理解してもらっています。
一年が経ち、オンコロジーセンターもやっと軌道に乗ってきました。次のステップは、全国の国際医療福祉大学グループの病院・診療所にもオンコロジーセンター機能を広げていくことです。時代は変わりましたが、もはや、抗がん剤治療は特別な専門施設でなければ受けられない、日常生活も社会生活もすべて犠牲にしなければならない、という時代ではありません。自宅からちょっと歩いて行けるところや、会社の近くにオンコロジーセンターがあればどんなに便利でしょう。日々の交番のように、外来がん化学療法を行う施設をあちこちに作ることで、それが私の目標です。興味がある方はご連絡ください。

国際医療福祉病院・マロニ苑・梶の実荘

七月十三日
今年もグループ職員が「西那須野ふれあいまつり」に参加「西那須野ふれあいまつり」で恒例の「流し踊り」が七月三十一日(土)開催された。台風接近で心配された天気も回復し、国際医療福祉病院・マロニ苑・梶の実荘の三施設職員有志総勢百五十余名が参加し、夜の西那須野町を練り歩いた。
艶やかな浴衣姿の女性を縫って舞う看護師姿の男たち、白馬も大爆走、浦島太郎に着物の女性、ハワイアン女装にハゲ親姉妹(?)の踊りに観客も大喝采。日中の炎暑はどこへやら、涼風が吹き、しのぎやすい夕べとなったが、各参加団体の踊りにか



審査の結果グッドアイデア賞に

ける意気込みは並々ならないものがあり、異様な熱気が辺りに満ち溢れていた。私たちが地域医療に励むものとしての誇り(?)を胸に、精一杯踊り、審査の結果グッドアイデア賞を頂くことができた。今後とも地域に「笑い」ではなく「医療福祉」で貢献していきたいと思っている。
(国際医療福祉病院総務課 小林庸良)



雨のため、マロニ苑と梶の実荘のロビーに会場を移して開催

国際医療福祉病院・マロニ苑・梶の実荘による三施設合同納涼祭が八月七日(土)十八時から行われた。今年は暑い日が続く県内でも食中毒の発生が多発していることもあり、手袋着用等、公衆衛生対策に万全の体制を敷き、危険箇所の警備を従来より厳重にし、参加者の安全に細心の注意を払った。
残念なことに夕立が降り、断腸の思いで屋外駐車場での開催を取り止め、マロ

二工苑と梶の実荘のロビーに会場を移して開催された。参加者は八木節やヨサコイ・アトラクション等を楽しみ、焼きそばやた焼きなど一部の模擬店も出され雨の振る中でも楽しい時間を過ごすことができた。
昨年は台風で花火が中止となり、今年もだめかと諦めかけていた矢先、天に願いが通じたのか奇跡的に晴れ上がり、夏の夜空に大団の花が咲きほこった。花火の後の涼風には硝煙の臭いと微かな秋風が交じりあって郷愁を誘い、誰にとつても、忘れられない夏の思い出となった。
(国際医療福祉病院総務課 小林庸良)

国際医療福祉病院

Information Nishiusuno 2

切らずに結石だけを砕く最新治療法「体外衝撃波結石破砕術」(ESWL)のご案内

一 尿路結石症とは?

尿路結石症とは、腎臓から尿管・膀胱・尿道の通り路に結石ができる病気。結石が尿とともにスムーズに流れ、自然に排出されれば問題はないが、腎臓や尿管に留まると、腰や腹部に激しい痛みや血尿などを起こすことがある。放っておくと腎臓の機能が低下する場合もある。食生活の欧米化に伴い増加しており、統計的に十人に一人は罹る可能性がある。

当病院においては体外衝撃波結石破砕術装置を使い、腎・尿管結石を切らずに治す「体外衝撃波結石破砕術」(ESWL)を

を行っている。この装置は、体外から衝撃波というエネルギー波を結石に向けて照射し、筋肉や他の臓器を傷つけることなく、結石のみを細かく破砕する最新療法である。砂状に破砕された結石は尿とともに自然に体外に排出される。

三 主な特徴

- ・体に傷がつかない。
 - ・治療時間は短く、一時間以内で終わる。
 - ・副作用・後遺症はほとんど認められない。
 - ・入院期間が短く、退院後すぐに日常生活・職場への復帰が可能。
 - ・高齢の方や、他に病気のある方、高血圧・糖尿病などでも安心して受けられる。
 - ・再発の場合の治療法としても最適。
 - ・健康保険が適用される。
 - ・本院ではドクターの管理のもと、毎月十五症例程治療が行われている。
- (国際医療福祉病院総務課 小林庸良)



結石破砕装置：ドルニエ リソトリプター-D



勉強するなら、「医療福祉チャンネル774」

医療福祉チャンネル774では、衛星放送スカイパーフェクTV! 774チャンネルで、医療・福祉・健康・介護に関する教育、教養、情報番組を放送!

「介護福祉士受験講座2005」&「社会福祉士受験講座2005」開講!

介護福祉士受験講座2005
 ツボを押さえた講義と講師執筆の番組完全準拠のサブノート活用で、要点を素早く理解。実技試験対応の実技編では映像の利点をフル活用。
 社会福祉士受験講座2005
 福祉系大学・専門学校生・福祉関連施設従事者の国家試験受験勉強ツールに最適。番組でペースをつかみ、着実に解答力が付きます。



介護福祉士受験講座：松永安優美先生
 (老人保健施設安の里・医師)



社会福祉士受験講座：鈴木五郎先生
 (国際医療福祉大学医療福祉学部長・教授)

第1回 医療経営セミナー

「医療貸付事業の現状と課題」「病院を取り巻く経営環境と医療福祉経営審査機構」「銀行から見た医療機関の資金調達」病院を取り巻く環境の変化を多角的な視点から解説します。



開原成允先生
 (株式会社医療福祉経営審査機構 CEO・国際医療福祉大学大学院長)

医療福祉チャンネルを見るには

「医療福祉チャンネル774」は衛星放送スカイパーフェクTV!の774チャンネルでご視聴いただけます。ご視聴には、スカイパーフェクTV!専用アンテナ&チューナーをお部屋のテレビにつなぐだけ!
 視聴料・・・月額2,100円(税込) / 法人契約：5,250円(税込)
 (このほかに、スカイパーフェクTV!加入料・・・2,940円(税込・初回のみ)・スカイパーフェクTV!月額基本料・・・410円(税込)がかかります。)
 IUHW学生、マロニエ会会員、教育後援会会員の皆様は、特別視聴の制度があります。下記までお問合せ下さい。

テキストのお申し込み・視聴に関するお問い合わせは
 フリーダイヤル 0120-870-774(お客さま係) Eメール info@iryoufukushi.com ホームページ www.iryoufukushi.com

IUHW 国際医療福祉大学出版会新刊書のご案内

試験に必要な知識が 短期間で、効率的に、確実に身につく

「必携 ケアマネジャー試験対策2004」



定価：4,500円
 (税込・送料サービス)

試験対策「必携」シリーズの第2段階いよいよ発行!

「必携 社会福祉士国家試験対策」



定価：4,500円
 (税込・送料サービス)

これから社会福祉学を学ぼうとするすべての初学者のための入門書

「入門・社会福祉学」



定価：本体2,940円
 (本体2,800円+税5%)

医療・経営管理職育成のためのバイブル。待望の四訂版!

「四訂 医療・福祉経営管理入門」



定価：本体3,990円
 (本体3,800円+税5%)

ご注文は、国際医療福祉大学出版会まで 〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-34 島藤ビル 電話03-5414-6098 FAX03-5772-5549
 E-mail: press@iuhw.ac.jp http://press.iuhw.ac.jp

デザイン：アイ・デフト。

発行：国際医療福祉大学
 編集部
 【東京】
 〒107 0062
 東京都港区南青山一 一四一
 アミティ乃木坂三階
 電話 〇三二四七五 五〇六一
 【大田区】
 〒324 8501
 栃木県大田原市北金丸二六〇〇
 国際医療福祉大学内
 電話 〇二八七 二四 三〇〇〇



IUHW 短信

オープンキャンパスで「模擬授業」を開催

IUHW Note

平成17年4月に開設予定の薬学部薬学科をはじめ、本学全学科の「模擬授業」を以下のように実施します。

日程：10月16日(土)・17日(日)

場所：本学F棟2階にて(教室番号は下の時間割を参照)

時間割：10:10～10:50 作業療法学科(201教室)
 13:00～13:40 医療福祉学科(201教室)薬学科(202教室)
 13:50～14:30 医療経営管理学科(201教室)言語聴覚学科(202教室)
 14:40～15:20 理学療法学科(201教室)視機能療法学科(202教室)
 15:30～16:10 看護学科(201教室)放射線・情報科学科(202教室)

問い合わせ先：国際医療福祉大学入試センターへ
 0287-24-3210(広報室)または0287-24-3200(入試課)